

ハンドマイク街頭演説原稿例

ウクライナ問題・党の立場

二〇二二年四月八日 日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちば。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

みなさん、ロシア・プーチン政権のウクライナ侵略が始まって一カ月半がすぎました。ウクライナの多くの市民、子どもたちが命を落とす痛ましい事態を目にして、いてもたってもいられない悲しみと憤りをつのらせておられる方も多いのではないのでしょうか。日本共産党は、「ロシア・プーチン政権の無法を糾弾するとともに、「ロシアは侵略をやめよ」「国連憲章を守れ」の一点で、全世界の政府と市民社会が声を上げ、力を合わせることを呼びかけてきました。国際世論の包囲によって侵略を止めるため、引き続き最後まで力を尽くす決意です。みなさん、日本からも反戦の世論をいっしょに広げましょう。日本共産党はウクライナへの支援募金にも取り組んでいます。ぜひご協力ください。

さてみなさん、ロシア・プーチン政権のウクライナ侵略について、「ウクライナにも問題があった」という声もあります。しかし、他の国に対して武力で侵略するという国連憲章違反をしたのは、ロシア側です。原子力発電所への軍事攻撃や民間人の虐殺などの戦争犯罪をしているのは、ロシア側です。さらには、「核兵器を使うぞ」とおどしをかけているのも、ロシア側です。ロシア側が重大な国際法違反をおかしたからこそ、国連総会でロシアを断罪する決議が二回も採択されたのではないのでしょうか。「ロシアは国連憲章と国際法違反の侵略行為をやめよ」の声を、いっしょにあげましょう。

みなさん、ロシア軍の無法な軍事行動を見て、「日本の平和は大丈夫か」と心配の声が寄せられています。当然の不安だと思います。この不安に乗じて、「憲法9条では日本は守れない」とあおりたてる人たちがいます。ですが、「軍事、核兵器、力の論理」で来る相手に、同じことで対抗しようとするれば、果てしない軍事拡大の悪循環におちいることは、これまでの歴史で証明されているのではないのでしょうか。そして、軍事衝突がいったん始めれば、どんどんエスカレートし、多くの市民が苦しむこととなります。岸田自公政権が進めようとしている「敵基地攻撃能力の保有検討」や、維新の会などがかかげる「核兵器共有」の議論は、もともと危険な道ではないでしょうか。平和の実現には、戦争の準備ではなく、戦争を起こさない外交こそ必要です。日本共産党は、憲法9条を生かした平和外交の実現へ、全力で取り組んでまいります。

また、万が一、日本が軍事攻撃を受けるなどの主権侵害が起こった場合には、自衛隊を含めたあらゆる手段を使って、国民の命と日本の主権を守りぬくというのが、日本共産党の立場であることを、この機会にご紹介いたします。

最後になりますが、気候危機、ジェンダー平等など多彩な記事満載の「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたします。この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。(了)